

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時55分）

---

◇ 土 屋 清 武 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、土屋清武君。

（8番 土屋清武君 登壇）

○8番（土屋清武君） それでは、一般質問の機会を得ましたので、これより一般質問を行います。

私の質問は、1. 松崎町の地域創生総合戦略について。2. 牛原山町民の森整備計画について。3. ふるさと納税についての3点であります。

まず、1. 松崎町の地域創生総合戦略についてであります。この案件については、松崎町の人口は2040年には4000人台と推計されておりますが、そこで、行政では目標を4000人台で諸行政を行っていくべきではないかというような意見を私は聞いたことがあるわけです。それは行政のすべきことではないと私は確信しております。

そこで、町長はこのような状況下の中で、町の人口の現状維持を目標に諸政策を行っていく姿勢については、大いに賛同するものであります。

そこで、本計画は平成27年度から5年間となっておりますが、現在の進捗状況はどうか。また本戦略の推進は「松崎町日本で最も美しい村推進委員会」を中心に進められることになっているが、庁内における推進体制は整備されているのか。また本戦略において、人、経済循環の地場産業の創生、育成の実施状況は。

次いで、2. 牛原山町民の森整備計画についてであります。これは、私が平成27年3月定例会で一般質問し、その時の回答では26年度から現地踏査、ヒアリング、計画策定等が行われるとのことだったが、現在はどのようになっているのか。また完成はいつ頃は。次いで、県有地以外に30人で6ヘクタールを借用しているが、その額は。

次の3点目のふるさと納税についてですが、当町と近隣の町と比較して、大きな差があると聞くが、庁内検討したことがあるか、その経過の説明をお願いいたします。

壇上での質問は以上です。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長 (齋藤文彦君) 土屋清武議員の一般質問にお答えします。

1. 松崎町の地域創生総合戦略について。①「本計画は、平成27年度から平成31年度までの5年間となっているが、現在の進捗状況は怎么样了のか」についてでございます。

平成28年3月に策定した「松崎町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」では、環境・文化の循環、ひと・経済の循環(安定した雇用の創出とひとの流れ)、子育て・教育の循環(結婚・出産・子育て希望の実現)、健康長寿・安心社会の循環(安心して過ごせるまちづくりと地域間連携)の4つの循環を回し、未来(あした)への循環軌道を踏まえたまちづくりを展開することとしております。

事業については、実施年度や財源、体制を勘案しながら優先順位を付けて実施することとなりますが、平成27年度におきましては、国の地方創生先行型交付金を活用し、空き店舗を改修し、まちづくりの拠点オフィスや外部人材にワーキングスペースとして活用するためのシェアオフィス整備998万円、空き家利活用促進事業270万円、地方創生支援事業補助金200万円、移住・定住ガイドブック作成90万円などを実施いたしております。

また、平成28年度においては地方創生加速化交付金を活用し、なまこ壁の実態調査・活用計画策定などを行う歴史的ふる里整備事業1500万円をはじめ、過疎地域等自立活性化推進事業による桜葉の振興事業に1025万円、移住・交流拠点施設利用促進・インフラ整備・整備工事などに1160万円、地方創生事業補助金600万円などを予算措置し、賑わいの創出や産業・雇用の創出、移住・定住を図るべく、事業を推進しております。

②『本戦略の推進は「松崎町日本で最も美しい村推進委員会」を中心に進められることになっているが、庁内における推進体制は整備されているのか』についてです。

町では、「日本で最も美しい村」連合への加盟にあたり、町民一体となった取り組みとするために、町内の各種団体を網羅した全町的な委員会である「松崎町日本で最も美しい村推進委員会」や主体的に参加された皆さまで構成される「松崎町まちづくりやろうじゃ協議会」と連携してまちづくりを進めることといたしました。

特に、総合戦略の策定にあたっては、「松崎町日本で最も美しい村推進委員会」を中心に戦略の策定及び着実な推進を図るとともに、数値目標及び重要業績評価指標(KPI)の達成状況を検証することとしております。

町の推進体制につきましては、課長会議を中心に庁内推進会議を設け、各課の意識の共有

化を図るとともに、総合計画や総合戦略の事業の推進、美しい村づくりに向けた戦略を検討しております。

今後も、「日本で最も美しい村」づくり、総合計画・総合戦略の着実な推進を図るため3つの組織が連携し取り組んでまいります。

③「本戦略において、ひと・経済の循環の「地場産業の創生、育成」の実施状況はどうなっているのか」についてでございます。

「地場産業の創生・育成」は主に桜葉産業を中心に考えており、8月に桜葉に関わるすべての方を対象にアンケートを実施しているところで、この結果を見ながら生産体制を見直すとともに、新たな商品開発、消費拡大、担い手の育成、増加を図ることとしています。

また知名度アップのための地理的表示登録については生産者、農協、商工会などと調整しているところですが、安定して品質のよいものを生産する体制が必要不可欠になりますので、農薬等についても研究するよう調整しています。

その他の項目については特に大きな進展はありませんが、6月に補正予算で計上した過疎地域等自立活性化推進事業を活用し桜葉産業の活性化を図るとともに、生産の元となる農地の保全、集約化を進めていきたいと思っております。

2. 牛原山町民の森整備計画について。①「本計画は、平成26年度から現地踏査が行われているが、現在進捗状況はどうなっているのか。また完成はいつ頃を予定しているのか」についてです。

牛原山町民の森につきましては、平成26年度から整備計画策定業務を地域ブランディング、パークマネジメントや島根県海士町の総合振興計画などで実績のある大阪府吹田市の株式会社スタジオールに委託しております。

平成26年度は、現地踏査や町の現状把握や統計数値のまとめ、ヒアリング調査などの業務を行い、平成27年度は、町民と行政が連携して進めていくための職員のヒアリング技術やワークショップのファシリティ技術の研修やヒアリング調査、パークマネジメントのフォーラム、町民ワークショップを開催させていただいたところでございます。

また、平成28年度は町民のワークショップや社会実験を行い、整備計画策定に向け、検討を進めております。

なお、牛原山町民の森の整備計画策定にあたっては、場を使う立場である町民が、実際に場を使いながら計画策定に参画すること、再整備後に町民活動を視野に入れた計画であるこ

と、町民自身が主体的に森づくりに関わること、外部の視点、場に訪れる立場を取り入れた計画であることをポイントとしております。

② 町民の森は、県有地以外に30人で6ヘクタールを借用していると聞くが、その全体の借地料はどのくらいか」についてです。

牛原山町民の森の県有地以外に、個人から借用している土地は、牛原山遊歩道も含め、30人、6万4522㎡で、借地料は63万7919円となっております。

3. ふるさと納税について。①「当町のふるさと納税額は、近隣の町と比較して大きな差があると聞くが、その原因について検討したことがあるか」について

ふるさと納税につきましては、平成27年度より寄付金額により、返礼品を用意するとともに、現在30業者で105品目、WEBサイト（ふるさとチョイス）による紹介やクレジット決済のシステムも取り入れて新たな形としてスタートしたことは、これまでの行政報告等でもご説明をさせていただいているところでございます。

平成27年度の状況につきましては、寄附件数1637件、寄附総額2322万円となり、平成26年度の23件、614万円と比較しますと2.6倍、1700万円余りの増となっております。

静岡県内では、焼津市がトップで全国2位の38億2000万円、2位は、西伊豆町の10億円、3位は、磐田市の9億7000万円となり、松崎町は25位となっております。

トップの焼津市は800品目以上の多彩な返礼品を用意し、特に焼津市特産の天然ミナミマグロやカツオなどの水産物、加工品が選ばれています。

ふるさと納税を増やすためには、広報の充実もさることながら魅力的な返礼品をいかに多く取りそろえるかが重要になります。これまでも町内の企業・団体にお願ひし、返礼品を少しずつではありますが増やしてまいりました。当然のことながら、返礼品の拡大、充実には、品物を提供していただく企業・団体の協力が必要不可欠なことから、今度も積極的に働きかけを強めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○8番（土屋清武君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○8番（土屋清武君） まず、はじめの地域創生総合戦略についてであります。この中で、先ほどの質問の・・・、ちょっと私が聞き洩らしたのか、庁内における推進体制は整っているかという回答が・・・、ちょっと聞き洩らしたのか、回答がありましたか。そこのところをちょ

っともう一度お願いしたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 庁内の推進体制ということですが、まず外部については、美しい村推進委員会が各種団体を入れた組織があるわけです。一般のといえますか、やろうじゃ協議会なんかも自発的にあった組織ということでやっております、庁内については、課長会議を中心に戦略を検討していく会議ということでございます。

○8番（土屋清武君） 課長会議等である程度諸職員には連絡はしてあるということですが、実質的にこの事業を実行するには、行政だけじゃとてもできないわけですから、町民にどのようなPRの仕方をしているのか、その辺からまずお伺いします。

○企画観光課長（山本 公君） 地方創生の総合戦略につきましては、概要版等につきまして町民の皆さんに各戸配布をさせていただいております。また、どんな事業を進めていくかということについては、年度当初の予算の説明の中で概要等は説明をいたしておりますし、また美しい村の推進委員会は33名ほど委員の皆さんがいるわけですが、各種団体の代表の皆さんが務めておまして、その皆さんを中心に各団体に意識の共有を図っていただく、あるいは事業を進めていただくということになります。議員がおっしゃられるように、町だけでは当然できない、全てができるわけではございませんし、各種団体、農業の方も含めて、それらの皆さんに協力を求めて、ご協力いただいて事業を展開していくということになります。

○8番（土屋清武君） 実は、これは、今度の概要版ですが、これを全部配布したからといって、どんかい見ているかと・・・、広報で30パーセントが上出来だと言われてます。それで、町の中で、近年は、私もOBであるから、そういうことはあまり聞きたくなかったわけですが、町民の中へ割と今の職員は入って来ないと、行政の役場の中から外へ出ないという話を聞くわけです。だから、役場で何をやっているのか。町民はそっちのけだというような話を聞くわけですが、商店街なら商店街の役員会なんかに当時・・・、過去のことを言っちゃああれですが、役員会がある時には、声をかけてくださいというのを担当の時には言ってあって、声をかけてもらおうと行って、いろいろと情報収集したり、また意見を行ったりしたことがありますけれども、今は測量をしている人たちも見たことがない。役場の職員はいったい何をやっているのかなというようなことを盛んに聞きますが、町長、その辺をどう思いますか。

○町長（齋藤文彦君） 私は、本当に松崎町はいろいろいっぱい財産はたくさんあるけれども、

一番の財産は職員だと思っ­ていま­して、いつも答えているわけですがけれども、やっぱり職員も答えは現場にあると、やっぱり現場に行­って汗をかく姿を見せな­きゃいかんと思っ­ているわけですがけれども、こういうことは言うわけですがけれども、なかなかどうしても室内の仕事が多くな­って、土屋議員が言うようなことは本当にあると思­います。やっぱり出­て行­って、町の皆さんがどうい­うふう­に考­えて、どうい­うことを松崎の役場に要望しているかとい­うよ­うなことを肌身で感­じないとな­かなかこ­うい­う計­画にもい­かないと思­いますので、なるたけ出­るよ­うに私­は言­っているところ­でござ­います。

- 8番（土屋清武君） 実­は、先­ほ­どの渡辺議員が桜葉の栽培等につ­いて産業建設課長が、葉っぱを束ねるよ­うな機­械をとい­うよ­うな話を聞­きましたけれども、課長は課長としてがんば­っていると思­います。実­は、私­も桑の関­係で、我­われは地­方創­生の一­役だと思­ってや­っているわけ­ですがれ­ども、今­年­で4年目にな­りますけれども、役場の職員は一度も来­たこ­とがな­い­です­よ。県­の職­員はも­う毎­月とい­うよ­うに­来­て、何­かお­手­伝­い­するこ­と­はあ­り­ま­すか­と­か、こ­うい­う関­係につ­いては、ぜ­ひこ­うい­う販­路関­係につ­いては、6次産業の発表会が­あ­り­ま­す­か­ら、沼津で­あ­り­ま­す­か­らぜ­ひこ­うい­うと­こ­ろ­でや­ら­れ­た­ら­い­か­が­で­す­か­とい­うよ­うなこ­と­な­ん­か­を­わ­ざ­わ­ざ­来­て­教­え­て­く­れ­る­わ­け­で­す­よ。

職員は、講習・・、県あたりの事業なんか全部わか­っているわけ­です­か­ら、そ­うい­うの­を­町­の職­員­か­ら­教­え­て­も­ら­い­たい。県­が遅­く­な­っ­て­か­ら­来­る­わ­け­で­す­か­ら、県­の­人­た­ち­は、そ­れ­だ­け­で­来­る­わ­け­で­も­な­い­も­の­で­す­か­ら、ど­う­も­い­ま­町­長­が­言­わ­れ­た­よ­う­に、職­員­が­町­民­の­中­に­入­っ­て­来­な­い­と­い­う­よ­うな­こ­と­で、盛­ん­に­そ­うい­うこ­と­を­聞­き­ま­す­の­で、今­後­ぜ­ひ­こ­の­事­業­を­実­施­す­る­に­あ­た­っ­て、職­員­は­極­力­町­内­の­住­民­の­中­に­入­っ­て­説­明­し­・­・、機­会­が­あ­れ­ば­説­明­し、そ­うい­うと­こ­ろ­を­極­力­求­め­る­よ­うな、自­分­か­ら­積­極­的­に­求­め­る­よ­うな­こ­と­を­お­願­い­し­た­い­と­思­う­わ­け­で­す。そ­ん­な­と­こ­ろ­で、こ­の­創­生­関­係­に­つ­き­ま­し­て­は­終­わ­り­た­い­と­思­い­ま­す。

- 議長（稲葉昭宏君） 答­弁­を­町­長­の­方­で­・­・。

- 町長（齋藤文彦君） そ­の­よ­う­に­な­れ­ば­い­い­な­と­思­っ­て­い­る­と­こ­ろ­で­す。

私­は、必­ず­農­業­関­係­の­会­社­に­行­っ­て­意­見­を­求­め­ら­れ­る­と、必­ず2つ­の­こ­と­を­言­う­ん­で­す。一­つ­は、石部­の­棚­田­を­見­て­い­て、あ­そ­こ­は、木村向三郎先生が農業は本当の究極の出会い産業であると、ものすごくこの里山は大切だよとい­う­わ­け­が­れ­ど­も、松崎町­の­里­山­の­風­景、日本全国­の­里­山­の­風­景­と­い­う­の­は­日­本­の­国­を­防­衛­し­て­い­る­こ­と­だ­と、守­っ­て­い­る­こ­と­だ­と、

それで、本当に防衛費の一部から里山補助にひとつお金をくれないだろうかなんて言って、笑われるんですけど、必ずこれをもう枕詞で言っています。

そして、もう一つは、本県では、お米、みかん、お茶などの主要作物を対象にした基盤整備、ハードやソフト対策はみられるけれども、地域特有の作物等に対する支援は乏しいと考える。

当町は、全国シェア7割を占める桜葉や過去には松崎相場とまで言われた繭、桑葉など全国に誇るべき作物も存在している。地方創生の観点からも地域が国県の施策、事業制度に合わせるのではなく、地域自らが計画を立案したビジョン、事業制度に国県が合わせて補助、支援していくような体制が必要であると、そして、地域自らが実施すべきものと考えられているのが実態であるが、地域では財政的、人的に対応が非常に困難であるけれども、国県が認めるようなビジョンを描いた地域、地方には国県も積極的な補助、支援を行うべきだということを私は必ずこれは言っているわけです。

それで、本当に松崎の桜葉と桑というのは、本当の松崎の農業の基本となるところだと思っていますので、こういうことを訴えていきたいなと思います。

職員になるたけ行け、行けというのは、私からはなかなか言えないわけですけども、職員自らが松崎のためにがんばっているから、行って欲しいなと思います。

それで、スタートする時は、やっぱり健康のためと休耕田うんぬんの話がスタートしますので、そういうことも話してみたいなと思っています。

○8番（土屋清武君） それでは、この辺で・・・、町長が反省するというようなこともあるようですので、その辺で終わりたいと思います。

次の牛原山町民の森の関係でございますが、これは、私が26年の時に質問したわけでございます。その時には、30人で6ヘクタールの用地を借用をしているという回答があったわけですけども、昨日、一昨日ですか、27年度の決算の勉強をしたのは2日ですか、この時に説明受けたんですけども、その時には、28名、62万7153万円というように伺ったんですけども、その辺をちょっと・・・、先ほど町長は63万7000円と・・・。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほど町長の回答でもありましたけれども、遊歩道部分、登っていく部分の遊歩道部分がありましたので、牛原山の山頂部の整備した場所でいきますと・・・、山頂部と言うんですか、あの一帯は28件で62万7153円が決算の数字になると思いますけれども、遊歩道が一部入っていますので、その部分を加えさせていただいて、30件、63

万7919円というような回答をさせていただいたところです。

○8番（土屋清武君）　それで、町長、この関係で、この牛原山ですけれども、これは26年からでしょう。これは実質的に今までに委託料を含めた全体の経費はどのくらいかかっているんですか。

○企画観光課長（山本　公君）　牛原山町民の森の整備計画策定業務ということは、先ほど町長が言いましたけれども、スタジオ－Lの方に委託をして、町民の皆さんの参加をいただいて、ワークショップなんかをやりながら考えているということで、26年から28年までで1430万円位の金額になります。

○8番（土屋清武君）　そうしますと、今まででこれだけかかっていると・・・、1430万円ですと、これは実質完成するにはどのくらいを見込んでいるんですか。概算でも結構ですので、わかったら教えていただきたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　3か年で、先ほど申しましたようなワークショップですとか、職員の研修というんですか、進行ができるような技術をやったりとか、あるいは牛原山に行って、現地でみんな取り組みをしてみたりするようなことが28年まで、今年度で一応整備の考え方ですとか、計画の進め方ですとか、そういう整備計画みたいなものを今年度で一応考えるということになっています。

○8番（土屋清武君）　概算はまだわからないということですね。これは、牛原山町民の森は莫大な経費がかかるのではないかと想像するわけで、今までで何も・・・、ただ着工しないうちに1430万円なんて・・・、まだかかるんじゃないかと予想するわけですけれども、あまりにも牛原山は金が、投資しすぎじゃないかなというような感じがするわけです。

それで、実は、先だって牛原山に登ってみたんですけれども、私たちは当時あそこのところを草刈りなんかを盛んにやったわけですけれども、今は全然・・・、そのままですね。全然やっていないですね。だから、芝の中には背丈ほどの草が伸びっぱなしで伸び放題ですよ。これじゃあ、工事をやるからいいじゃなくて、そういうわけにはいかないと思うんですよ。町民の森として、あそこを指定してあるものですから、普段でも若干行く人たちが見て芝のような状況でないというのと、芝の広場が草だらけで背丈もあるじゃないかと、全然管理していないんじゃないか、これをまた、金を何千万円とかけるのかという町民も出ますよ。どう思いますか、町長。

○町長（齋藤文彦君）　本年度中に牛原山をこういうふうにしようというある程度設計図み

たいなものができるわけですがけれども。私もこの・・・これは土屋さんたちがやった時のあれだと思えるわけですが、牛原山町民の森のパフレットを見ますと、本当に素晴らしいわけですから、本当にこれを平成の牛原山町民の森をつくるようにこれから進めていくわけですが、いろいろなやっぱり行政がやって町民の・・・何と言いますかね、行政が公園をつくっちゃってもなかなか町民の皆さんが牛原山に行かないと、町民の意見を聞いて、牛原山に皆さんが行くような形の公園をと進めているわけですが、なりたけ早くお金がかからないように本当にこういう形にするよというのを皆さんの前に示したいなと思うところがございます。

○企画観光課長（山本 公君） 町民を含めてワークショップをやっているということは、整備後も自分たちがどういうふうに関わっていくかということについても考えてやっていっているということになりますので、町が全てを整備して全てを管理するというような形ではない形の牛原山の整備をしてまいりたいと考えております。

○8番（土屋清武君） 私は、職員の時にやったわけではないんですよ。退職後も観光協会の役員をやっていた関係で5年位前までは観光協会の役員は草刈りに行っていたんです。

ですが、ほかのところはやらない、全然、草だけで、観光協会の人だけがその地域をやったってしょうがないじゃないかというような状況ですから、最近はやっていないですが、一応そういうようなことですので、極力ちゃんとしたものはちゃんとしておく、整備計画の練り直しということはすべきだと思いますので、その辺をよろしく願いいたします。

次いで、3番目のふるさと納税についてであります。近隣の町と比較すると、先ほど町長の言われた数字とだいぶ差があるわけですが、実は、この返礼品について私の聞いた話ですと、担当の職員は、返礼品を何かいいものはないかということで町内へあそこはどうだ、あそこはどうだと、これと思うようなところに行って、いろいろと案を作ったそうです。

それで、夜遅くまで仕事をして、聞いた話で、どこまで本当かどうかですけども、大変がらばっていたと、町長は、身体を壊さなければいいかというようなことまで声をかけたというような話を聞いているわけです。というのは、わさび一つについても西伊豆で足りないものですから、松崎のわさびが出ているわけですね。一応西伊豆の返礼品として。

まだまだ町内には、回れば・・・、町内を検索すれば、まだまだ返礼品はあると思いますよ。

いま出しているもの以外に。

だから、その姿勢ですね。自分が担当だから、何とかこれを類似の町村と同じようにしたいということで、返礼品を見いだすというような努力を・・・、それなりにしていると思いますけれども、そんなところを検討していただきたいということで、町長、どうですか。

○町長（齋藤文彦君） 私も本当に西伊豆町と松崎町で物品にはそんなに変わりはないと思っていますよ。

それで、本当にやっぱり松崎の業者の皆さん方の、おれらはふるさと納税でベンツを1台くらい買うぞというような、本当にやってくれる人が出てこないかなと思っているわけです。

僕は、農業祭に行ってみても、かんきつ類は松崎町がほとんどトップですよ。シイタケ、ワサビ、それで豆腐だってなんだって松崎バージョンをいくらでも付けるわけだから、漁協にもいろいろ僕は話をしますよ。それで、農業振興会の皆さんはポンカンとかなんとか、真剣にやってくれないかというようなことを話をしているわけですが、なかなか進まないのが現状でございます。

担当者もいろいろ一生懸命やっていますので、ぜひ佐藤議員の方からも高校生の医療費無料の話もあったし、幼稚園、保育園の件もありますけれども、本当にふるさと納税を10億円位にして、子どもたちにプレゼントするくらいの気持ちでやりたいなと私は思っています。だから、担当者も行っていますよ。

○8番（土屋清武君） いま町長の回答は前向きに検討して進めていきたいというような回答をいただきましたので、まだ若干時間はありますけれども、以上で私の質問は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で土屋清武君の一般質問は終わります。

---